

未来へとつなぐあいさつ運動の輪

元西野川小学校PTA会長
宮前地区青少年指導員会副会長
山本 友彦

平成20年12月「あいさつ運動の輪」創刊号発行より10年が経ちました。当時あいさつ運動の発祥の地となった西野川小学校PTA会長であった私は、平成19年6月当校での学校教育推進会議で児童からの「地域の人とあいさつがしたい」との提案の声をその場で聞きました。その小さな一人の声を大切にし、そして次代への継続されてきた学校をはじめ地域関係者、各団体の方々に感謝は尽きません。本当にありがとうございます。

地域に密着したあいさつ運動の標語活動についても我が家の門扉には、全て貼らせて頂いております。これからもこのあいさつ運動からあいさつが自然に出来る街づくりに尽くしていきたいと思っております。

どんな組織でもあいさつは、大事です。人の心をかえる力がある不思議な言葉だと思います。ある日本の作家は、「子どもというものは、なにも知らん顔をして、なんでも知っているものだ」と書いてある書物を思い出しました。

未来をつくる子どもたちのために私のできることを足元の地域から行動を起こしていきたいと思っています。

5 あいさつ運動を推進してこられた主な関係者

あいさつ運動の思い

元野川中学校地域教育会議議長
株式会社宮山代表取締役社長
亀ヶ谷 修

朝のあいさつ運動を始めて10年を超える年月が経ちました。私が、野川中学校地域教育会議の議長をさせて頂いたときに、83（ハチサン）運動を提案したところであります。これは東京都品川区立の小学校PTA連合会が、朝の8時と夕方3時頃、小学生の登下校時に合わせて出来るだけ外に出て、子どもを見守ろうとの発案で平成17年に始まったと言われています。当時その話を聞き、素晴らしい試みだと感じ、早速皆さんに提案し賛同を得てスタートしたものでした。

昔。「隣の三尺忘れちゃだめよ」という言葉がありました。家の前の道を掃除するときに、自分の家の前だけでなく、隣に三尺（約90cm）入った所から掃除をする。隣の方も同様に掃除をすると、結果隣との境が一番きれいになる。近所付き合いのコツを解いた言葉だと感心しています。同様に、あいさつも「おはよう」だけで終わらせるのではなく、もう一步踏み込んだ話をする、そこから会話が進み自然と親しみが増やしてくるものです。良い意味でのお節介ですね。

家庭や地域社会においてコミュニケーションが薄れ、社会全体のモラルや規範意識の低下が深刻な問題となって久しく経ちます。このような問題解決には、地域の連帯感を高めることが重要ですが、その一つの方法として「あいさつ」が一番手軽に人との距離を縮めることができる魔法の言葉です。今まで地域住民の皆さんに対し、標語などの啓発活動を根気よく継続され、今では、地域の三つの小学校では、子どもたちも自然にあいさつができるようになってきました。

今後この活動が益々発展し、次の世代へと引き継がれていくことを心より願っております。

絆づくりは行動で！

あいさつ・防犯パイロット推進委員会委員
元南野川小学校、野川中学校PTA会長
社会福祉法人子の神福祉会常務理事
白井 裕一

地域が一丸となって行う「あいさつ運動」は、地域の「絆」を言葉ではなく、「行動」で示す素晴らしい活動！！

私が野川中学校PTA会長を務めさせて頂いた頃に野川台自治会発行の新聞「あいさつ運動の輪」に寄稿させて頂いた一文です。

それから7年が経過し、活動は現在に引き継がれている。「言うは易く行うは難し」と言いますが、改めてこの素晴らしい絆づくりの活動を約10年もの長きに渡り推進してきた地元地域や関係各所の皆様の地道な努力に感謝申し上げます。

昨今は、少子高齢化が進み、その解決手段として「地域包括ケアシステム」が必要と言われております。地域包括ケアシステムとは、「自助・互助・共助・公助」という4つの「助」を連携させ地域の様々な生活課題を解決する「地域づくり」の事です。特に「互助」は地域住民が主体となり、地域活動への参加や交流を交え、地域の強い繋がりを構築する事を目標としており、地域全体で取り組む「あいさつ運動」はまさにその互助の一翼を担っております。また小・中学校から「あいさつ運動」に係ることで、子ども達にとっても地域の多くの人達と交流し、地域社会への参画意識を育み、地域づくりの基礎を自然と学ぶことができる機会となっていると感じます。「継続は力なり」と言いますがこの活動を、次の10年へ繋げることで、子どもから高齢者まで、より住みやすい「地域づくり」ができると祈念しております。

現代版「向う三軒両隣」の大切さ

元宮前第一地区民生児童委員協議会会長

前宮前第一地区社会福祉協議会会長

野川いこいの家運営委員会委員長

青木 寅治

この10数年来、私は、野川地域の小・中学校4校の朝のあいさつ運動に地域の民生児童委員として、またその後の地区社協の役員として係わってまいりました。そして今も毎朝、短い時間ですが通学路で、こどもたちや通勤・通学する方々と挨拶を交わすことを楽しみにしています。

民生委員として、地域の人とあいさつ運動を始めた頃は子どもたちにこちらから声を掛けても、ちょっと間をおいてから「おはようございます」の声が返ってくる場面がよく見られましたが、今では子どもたちから、率先して元気のよい声が聞かれます。

私の今の子どもたちの印象として、どの小学校の子どもたちも「あいさつすると心があったかくなる！」という様子が伺えます。一方中学生は、あいさつのその先のクラブ活動等の面で「地域を舞台に新しい絆づくりにチャレンジしている！」ようにも感じられます。他の地域ではあまり見られないあいさつ運動は、地域の方はもとより、歴代の4校の校長先生や各先生方の長年に渡る日々の並々ならぬご努力の賜物と思い、改めて感謝申し上げます。

ご承知の通り、阪神淡路大震災の発生を契機に絆づくりの大切さが叫ばれてきてから、もう23年

も経過しています。あいさつは「心と心のキャッチボール」と言われていますように、気づき、見守り、支え合う「絆づくり」の始まりで、まさに私たちが求める地域福祉の推進の礎であると受け止めています。

このように人と人との間柄を大切にするあいさつ運動は、子どもたちの健やかな成長や犯罪の抑止のみならず、「向こう三軒両隣」のお互いさまの間柄づくりにもつながるものと受け止めております。逆に自立と連帯の現代版の「向こう三軒両隣」が、究極のあいさつ運動の行き着く姿のようにも思えます。

またこの4～5年来、来る2025年以降の少子高齢化と財政難の状況に対応するため、医療・福祉・介護・生活等の総合的な対応（「地域包括ケアシステムの構築」）が求められております。私たちの生活の場において、まさに「互助社会」、お互いさまの関係づくりが緊急の課題となっているように思えます。

そうした意味でも、野川地域で、長年に渡り家庭・学校・民生・地域が進めてきていますあいさつ運動を「標語づくり」等を通じてマンネリ化を戒めながら、引き続きその輪のひろがりを10年のスパンで進めていくことが大切に思えます。

6 広報紙「あいさつ運動の輪」の抜粋記事（資料編（H20創刊号～21号））

（1）あいさつから始まる「心」と「心」のふれあい

— 未来に続く架け橋 — 宮前区役所からのメッセージ！

H22.10 5号－1

H28.3 16号－1

家庭も視野に入れたあいさつ運動を！

宮前区役所こども支援室長 新谷 秀子

野川台自治会と学校が一緒に進められた「あいさつ運動」が3年を経過され、会議の報告でもほのぼのとしたお子さんとの交流の様子がお聞きできました。

家庭での挨拶はいかがでしょうか。何気なく意識しないで、「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「いってきます」「ただいま」「おやすみなさい」等と生活の様々な場面で挨拶を交わしていらっしゃると思います。昨今の報道からは、家族の絆が弱くなっているのでは、という事件が多く見受けられます。家庭の中で挨拶をし合いながら、「今日は元気が無さそうだけど！」「にこにこしているけど、何かいいことあったの？」と挨拶を入口にお互いの様子を気遣うアンテナを高くして、家族の基盤をお子さんが小さな時から意識して作っていただくことも大切なのではと思います。家庭や学校や地域で挨拶をし合い、元気に一日をスタートしてください。

H29.3 18号－1

「人と関わる力」！

宮前区役所地域みまもり支援センター

担当部長 松浦 和子

昨年4月から地域みまもり支援センターが組織され、各地区に担当の保健師が配置されましたが、地域の方々からは、「うちの保健師さん！」と呼んでいたこと、温かく迎えていただいたこと、大変嬉しく思っております。

さて、川崎市では全ての地域住民の方を対象とした地域包括ケアシステムの構築を目指しておりますが、将来の担い手の育成は最も大切なことのひとつです。学齢期の子どもたちが学校から出て積極的に地域の方々と交流し触れ合うことは、地域への愛着と親しみが深まるだけでなく、自然に周りを気づかうことができる力、いわゆる「人と関わる力」をも強くします。地域包括ケアシステムの推進に一番必要とされるのがこの力です。あいさつ運動はまさに地域とのふれあいの第一歩です。この運動で育った子どもたちが、将来「人と関わる力」を持つ頼もしい存在として、宮前区のまちづくりを我々と共に担ってくれることを大いに期待しています。

挨拶から始まる「心」と「心」のふれあい

宮前区役所こども支援室 室長 杉山 俊成

「挨拶」の「挨」の字は「心を開く」、「拶」は「近づく」という意味があり、心を開いて相手に近づくということが挨拶の本来の姿です。元プロ野球監督の野村克也氏は「挨拶は、人間らしく生きるための基本の心である。親に挨拶の心がないと、それは必ず子供にも表れる」と言っており、子どもたちに心を開いた挨拶や会話を大人が行わなければ、例えば子どもが発信しているSOSを迅速にキャッチすることも、何らかの支援や対策を的確に講じることもできません。川崎市では、この4月から地域包括ケアシステムの体制作りに着手しますが、高齢者のみならず、そこに暮らしているすべての人を対象とするものです。そこで重要になるのが、いかに顔が見える関係を構築していき、自分の住む街に愛着を持っていただくかだと考えています。あいさつ運動の輪で、心の扉を開いた挨拶を行い、一層心と心がふれあい温かい人間関係が構築された街となるよう心より願っております。

H30.3 20号－2

“災害に備えて” 日頃から

宮前区保健福祉センター 副所長 高階 清策

東日本大震災や熊本震災などの経験を風化させることなく、備えるためには、あいさつ運動をはじめとした日頃からの地域での触れ合いや顔が見える関係づくりが欠かせません。

宮前区では、今年度、総合防災訓練の中で災害発生時に避難所生活などで支援が必要な高齢者・障害者等の方々を想定して、避難所での要援護者訓練を実施しました。体育館での集団避難生活では支障のある感染症の方・介護の心配な方、障害のある方などのトリアージ訓練や空き教室を利用した福祉避難室設置、福祉施設を活用した二次避難所への誘導・開設訓練などを地域の皆様、避難所となる中学校に通っている生徒の皆さん、施設職員の方々が主体的に関わっていただきました。あいさつ運動は、災害時に支援が必要な方々とのきっかけづくりとなると共に、まさしく本市が目指す地域包括ケアシステムそのものです。これからも輪が広がり未来に続く架け橋となることを期待しています。



西蔵寺公園の十月桜（冬ざくら）

H25.10 11号-2

H29.3 18号-2

“人と人との交わり”をもう一度考える時代！

財団法人聖マリアンナ会東横恵愛病院

理事長 赤尾 保志

父は8年前に、母は今年天に召された。

両親は、大正、昭和そして平成の時代を力強く生き、私を含め、4人の子どもを育ててくれた。激動の時代の中にあって、生死を身近に感じながら、生きる喜びを私たちに教えてくれた。私が小学生1年の頃、家の中で鉛筆を削っていて、左手人差指を切ってしまった。6～7軒先に住む懇意にしていた小母さんの家に駆け込み、傷の手当てをしてもらった。

今でもその傷は残っており、それを見るたびにその小母さんのことを思い出す。当時は「向う三軒両隣り」の近所付き合いであり、家族同然の付き合い・交流があった。今は何となく隣人とも疎遠な感じがする。

人と人との交わりの大切さをもう一度考える時代に入っているのではないかな？

相互が扶助しあえること、心と心との交わりを深めることが、多くの人々との繋がりを広げることになるのではないのでしょうか。

(本文は、聖マリアンナ会報「ひだまり」
25年夏号に掲載されたのを、理事長さん
のご理解により転載させて頂きました)



H27.10 15号-2

“地域包括ケアシステム”で何だろう！

その風土づくりは“あいさつ”から

10年後の平成37年には、高度経済成長時代を支えてきた団塊の世代の全員が、75歳以上になります。そんな超高齢社会を迎え、経済・社会的に住み慣れた地域で誰もが今のまま安心して暮らし続けられるのか！日々の生活の中でふと不安に思うことがあります。

先般アリーノで「地域包括ケアシステムで何だろう！」をテーマとした地区社協とみかど荘地域包括支援センター共催の研修会がありました。区長さんもご参加下さり、講師の川崎聖風福祉会の中澤伸先生から、私たちは、住人というより地域の生活者として、自立支援から共生支援の視点に立って、将来「医療、介護、生活支援サービスを一体的に受けられる支援体制“地域包括ケアシステム”」の構築に取り組むことが求められているとし、特にその前提になるのは、やはり地域の人が気づき、助け合う向う三軒両隣・互助の大切さを熱く語っておられ、教えられる点が多々ありました。私たち自治会や西野川小、野川中のみならず、野川小、南野川小を含めた野川地域で進めているあいさつ運動は、気づき、支え合いの風土づくりにつながっているのだなと受け止めている方も多いかと思えます。

そんな中、求めたもの、 そして希望は、人のつながり

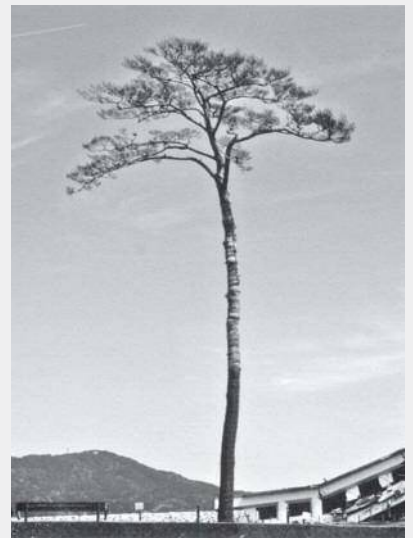
認知症介護研究・研修仙台センター長 加藤 伸司

平成23年3月11日に起きた東日本大震災では、これまで私たちが経験したことのない大地震と津波がこの仙台、東北地方、東日本を襲いました。

築いてきた家や地域は瞬く間に崩壊し、多くの尊い人命が失われました。地震は山を崩し地を裂き建物を引き込み、津波は、町、地域全体を飲み込んでいきました。ほんのわずかな時間の出来事でした。皮肉にも地域の温かみ、人の有難さ、家族の大切さを改めて感じざるを得ない出来事でした。今も不気味に余震が続きその度に隣にいる人、つながりのある人の安否をきにしています。

ライフラインは壊滅的被害を受け、近年、新たなネットワークとしての役割を担っていた携帯電話、メール、パソコンは使えず、何の情報を得ることすらできませんでした。そんな中、求めたもの、そして希望は、人のつながりでした。近所の人のごくわずかな情報と励まし、助け合いが多くの人を救いました。地域の（信頼）、お互いさまの心（互酬性の規範）、人と人とのつながり（ネットワーク）をこんなに強く感じたことはありません。

(H23「自助・互助機能活用とソーシャルキャピタル指標開発の研究事業報告書」の加藤氏の「はじめに」を引用)



奇跡の一本松（陸前高田市提供）

(3) 小中学校の校長先生と先生方の実践とその思い

野川小学校

H22.10 5号-3

あいさつ運動の果たした役割

野川小学校 校長 志村 辰也

野川小学校の「あいさつ運動」をスタートさせたのは、二代前の三枝校長先生です。ちょうどその頃、野川小学校はとても厳しい状況下にありました。家庭でも学校でもなかなか自己実現できない一部の子どもたちが荒れ、騒然とした状態の中で日々の教育活動が行われていました。その状況を打破する一つの方法として「あいさつ運動」が行われるようになったのです。

校長をはじめ教職員が校門で一人ひとりの子どもたちに声を掛けることで、「決して自分はどうでもいい存在ではない、掛け替えのない大切な存在なのだ」ということを伝えようとしたのです。学校は徐々に落ち着きを取り戻し、現在に至っています。「あいさつ運動」が果たした役割は大きかったはずです。毎朝、校門には当番学級の児童、ふれあい委員会の児童、教職員、そして校長が立って、子どもたちにあいさつをしています。町会の方や民生委員さんも参加してくれています。今後も続けたい大切な運動です。

H25.10 11号-3

おはようございます

野川小学校 校長 中川 久資

4月に野川小学校に着任し、毎朝「あいさつ運動」が行われていることに感動しました。

野川小学校では、毎朝8時に昇降口が開き、「あいさつ運動」が始まります。8時10分から野川ふれあい委員会の子も達、担当クラスの子も達とその担任が参加します。そして、その学年の保護者の方も参加します。曜日によっては町会の皆さんや主任児童員さん民生委員さんも参加してくれます。

登校してくる子ども達に「おはようございます」と声をかけます。負けずに声を返してくれる子もいますが、圧倒される子もいるようです。

気持ちよくあいさつし、お互いの気持ちが通じ合う、「おはようございます」と言えるような学校になればよいと思っています。どんな時も自然に挨拶が交わされる学校を目指したいものです。

H24.10 9号-3

コミュニケーションのきっかけ

野川小学校 教頭 笹田美知子

4月に野川小学校に赴任して、朝の校門は元気なあいさつの声であふれていることに驚きました。校長先生と用務員さんをはじめ、野川ふれあい委員会、担当クラスの子も達と担任・保護者の方、時には地域の方も参加して下さって、一日の始まりをみんなで気持ちよくしています。中には、笑顔いっぱいでおはようございますと言ってくれる子・ハイタッチをしてくれる子…。元気で楽しくなるエネルギーをさらにもらって、何か会話をしたくなります。

挨拶とは、一挨拶（いちあい いちさつ）から来ていて、問答（言葉のやり取り）を表しているそうです。心のノブは内側にしかついていない。他人が開けることはできないと言います。でも挨拶の力でこのノブは開かれるのではないのでしょうか。コミュニケーションのきっかけをつくる魔法の力をもつ挨拶で、素敵な一日・素敵な学校になるように、朝のあいさつ運動を続けていきたいと思っています。

H26.10 13号-2

心と心を結ぶあいさつ

野川小学校 教頭 藤生 豊

「おはようございます。」と声をかけると「おはようございます！」と元気なあいさつが返ってきます。朝のあいさつ運動の始まりです。

あいさつは「心のオアシス」とよく言われます。気持ちのよいあいさつはお互いの心をすがすがしくさわやかにしてくれます。また、目と目を合わせて笑顔であいさつを交わすことで心と心が結ばれます。「おはよう」「ありがとう」「失礼します」「すみません」が素直に出てくる子どもはとても素敵です。

あいさつの「あ」は「明るく」、「い」は「いつも」、「さ」は「先に」、「つ」は「続ける」となります。野川地区のあいさつ運動はまさに「あかるく、いつも、先に、続ける」活動です。これからも地域の方々と共にあいさつ運動に継続して取り組むことで、子どもたちと地域の関係を深めたり、子どもたちのコミュニケーション能力を育てたりしていきたいとおもいます。今後とも温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

あいさつを継続しよう！

野川小学校 教頭 菅原 隆宏

「おはようございます。」毎朝、正門から子ども達の元気にあいさつをする声が聞こえてきます。本校では、課業日に輪番で1年生から6年生までの各クラスとふれあい委員会の子も達が、登校してくる子ども達一人一人をあいさつで迎えます。どのクラスの子も達もさわやかな大きな声で、表情生き生きとあいさつする姿がみられ、すがすがしさを感じます。

あいさつは、心を開いて相手に歩み寄るという意味があります。1年生の時からあいさつを積み重ねてきている子ども達は、授業中でも自分の心を開き、相手の言葉をしっかり聴いたり、自分の思いを伝えたりして、話し合いがとても上手にできます。また、相手の心に歩み寄ることができるので、話し合いで友達をひとりぼっちにはしません。

あいさつすることで、認め・認められる人間関係が成り立ち、学校生活において良好なコミュニケーションをとることができます。より仲の良い野川小になるようにあいさつを続けたいと思います。



H30.3 20号-2

「おはよう」は、魔法のことば！

野川小学校 教諭 岡 信行

「おはようございまーす！」

今朝も、野川小学校の校門では、子どもたちや校長先生や地域の方々が、登校してくる子どもたちを、元氣なあいさつで迎えています。これはクラスごとに順番に立つ「あいさつ運動」。迎える子どもたちは、登校して来る子どもたちを励ますように、大きな声を張り上げ、迎えられる子どもたちは、元氣にあいさつを返す子もいれば、恥ずかしそうに、うつむいて正門に入る子もいますが、だれもが、気持ちの良い一日をスタートするきっかけになっているようです。

「おはよう」は一日の中で、人と人とが最初に交わす言葉。この短い言葉から、コミュニケーションが始まります。この取り組みを通して、自然にあいさつができる子が増え、朝だけでなく、日中、廊下ですれ違う時にも「こんにちは！」という声が聞こえるようになってきました。「あいさつ運動」は明るい学校づくりの柱となっています。

今日も笑顔で1日がスタート

野川小学校 教頭 松浦 徹

「おはようございます。」野川小正門には、登校時日替わりでクラスの子供たちが並び、気持ちのよいあいさつが響き渡ります。

私が4月に赴任し最初に見たときには、とても感動し心が温かくなったことを今でも覚えています。学校長・教職員はもちろん、民生委員の方々をはじめ地域の方々や保護者の方もこの運動に賛同頂き、十数年もの長い間続いていることにも驚かされました。

子供たちの様子は、元氣に最高の笑顔であいさつを返す児童もいれば、少しはにかみながらなど様々ですが、あいさつをすることにより「今日もがんばろう」というパワーがわいてきます。このような素敵活動は代々受け継がれ、今では4月に入学した1年生も元氣に朝のあいさつ運動を行っています。

地域の皆様、どうぞお近くにお寄りの際はぜひご来校ください。きっと元氣な朝のあいさつから素敵な1日がスタートできると思います。



野川小学校の朝のあいさつ運動

H30.10 21号-2

「あいさつの風」吹かそう

野川小学校 校長 藤生 豊

「おはようございます！」校門に元氣な声が響き、さわやかな「あいさつの風」が吹きます。野川小学校の一日は、あいさつ運動をする子どもたちの元氣な声でスタートします。野川小学校では、順番で全クラスがあいさつ運動に参加しています。朝のあいさつは、その日一日を頑張るためのパワーの源です。私自身、子どもたちが笑顔で返してくれる「おはようございます。」に日々元氣をもらっています。

気持ちのよいあいさつは、お互いの心をすがすがしくさわやかにしてくれます。また目と目を合わせて笑顔であいさつを交わすことで心と心が結ばれます。地域の方々とともにあいさつ運動に継続して取り組み、さらに「あいさつの風」を吹かしていきたいと思っています。子どもたちが地域の方々と明るくあいさつを交わし、子どもたちと地域の関係を深めていければと考えています。今後とも暖かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

「おはよう」は出会いの一步、学びの一步

西野川小学校長 榎本 重次

は る

はるの	はな	……	おはよう
さいた		……	おはよう
あさの	ひかり	……	みんな ともだち
きらり		……	いちねんせい

この詩は、1年生の国語教科書の最初に掲載されているものです。1年生から4年生は、この詩で国語が始まりました。5・6年生が1年生のときの国語の教科書も「おはよう」という言葉で始まっています。西野川小学校の子どもたちの学びの第一歩は、「おはよう」なのです。

「おはようは、人に働きかける言葉、人と人をつなぐ言葉（教科書「編集の趣旨」より）です。だから1年生の学習の初めにふさわしい言葉なのです。「おはよう」と言えば、「おはよう」と返ってくる。そんな家庭、そんな学校、そんな地域でありたいものですね。

H27.10 15号-1

心に迫る声

西野川小学校 児童支援担当 林 雅子

「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」地域の方々に見守られ、野川学区の子どもたちは、皆明るい笑顔・照れくさそうな優しい顔で挨拶をしてくれます。子どもたちが落ち着いた生活を送れているからだといつも感謝しています。挨拶とは「相手の心に押し迫る・向かっていく第一歩」と聞いたことを思い出します。「挨」・・・押す、「拶」・・・迫るという意味だと知り、人と接する第一歩という意味が自分の中で言葉として理解できました。確かに挨拶の声は、心を穏やかにしてくれる正に心に押し迫る声です。しかし、毎日元気な声ばかりではありません。私たちはあさの子どもたちのあいさつの声はその日の心の動きを伝える最初の意思表示だと受け止めています。困っている事柄は様々ですが、子どもを見守る私たち大人は、常に温かい心で子どもたちから発せられる心に迫る声をしっかりと聴き、移り変わる心の動きを常に察知する細やかな努力を怠らないよう過ごしていきたいと思います。

あいさつは相手を尊敬する行為

西野川小学校 校長 高橋 順一

4年生女子児童で、3年生の始めからきちんと立ち止り、丁寧にお辞儀をし「校長先生、おはようございます」と挨拶する児童がいます。茶道の亭主と客の関係に似たものを感じます。つまり身分や立場や年齢を超え、人間と人間が相対し互いに敬意を払う一期一会の精神です。相手の生命をリスペクト（尊敬）し合う瞬間が「挨拶」だと実感しています。「愛察」と言う言葉を掲げたのもそんな意味を込めています。その児童に対し、私も一人の人間として尊敬の気持ちで、おはようございますと答えます。

「校長先生、おはようございます。」気がつけば、階段の上から私の背中に気持ちいいあいさつが降ってきます。校長室前で出会った子どもには、こちらから「おはようございます」、「こんにちは」と声をかけています。私の義務だと決めています。昨年からの二年間、あいさつの素晴らしさを何回朝会で話したことでしょう。また学校だよりでもその話を繰り返しました。

校門挨拶、朝の会だけの挨拶だけでなく、挨拶の日常化ができたのではないのでしょうか。次は、洒落た挨拶の出来る学校にしたいと考えています。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

「あいさつの輪」を相手意識で広げよう！

西野川小学校 校長 白坂 雅妃子

あいさつは「おはようございます」以外にも、「こんにちは」「お世話になっています」「お久しぶりです」等々、たくさんあります。また声には出さずとも、会釈をしたり笑顔を返したり。つまり時と場を考えて、今はどのあいさつが適切かを判断することが必要となります。そこで大切なのが、相手意識です。

地域でのあいさつが浸透していくまでには、時間を要します。だからこそ、子どもの時から色々な人と進んであいさつをしていく経験は大切です。あいさつは、する側にもされる側にも相手意識があるだけで伝わり方が変わっていくと、改めて感じさせられます。

元気な声に相手意識が加わると、心のこもったあいさつとなり、「知らなかった人は、あいさつを交わす人」に変わっていきます。継続して行ってきたこの取り組みを通して西野川では少しずつ地域の方とのあいさつも広がってきています。さらに相手意識を大切に、「あいさつの輪」が今後も広がっていくことを願っています。これからも中学校としては、地域の皆様と共に野川の子供たちを見守り支えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

H29.10 19号-1

その人のあたたかさが伝わる！

西野川小学校 児童支援コーディネーター 田中愛紀乃

今年度から、西野川小学校に赴任して、緑を楽しみながら、自転車通勤をしています。

野川地区に入ればばらくすると、毎朝ご自宅の前で立っていらっしゃる年配のご婦人がいました。最初は会釈のみでしたが、そのうちに「おはようございます」と声をかけあうようになりました。けれど、梅雨に入って1週間ほど、全くお見かけしない時期がありました。(どうしたのかな？体調をくずされたのかな？)と心配になりました。7月に入ったある日、いつものように笑顔で手を振って「いってらっしゃい。」と言ってくださる姿を発見しました。私もほっとしながら、「行ってきます。」と返しました。お互い、名前も素性も全く知らない者同士ですが、あいさつだけでその人のあたたかさが伝わりました。

野川地区のあいさつには、そんなあたたかさを感じます。あたたかいあいさつ運動に見守られて、子供たちは本当に幸せです。いつもありがとうございます。

心に響く あいさつ

西野川小学校 教頭 水谷 峰幸

「おはようございます。」しっかりと顔を向けて、満面の笑みをうかべながら。

西野川小学校に赴任して、5か月が経過しましたが、この間に本当に素敵なあいさつと出会うことができました。その子はしっかりと顔を見て、常に笑顔いっぱい、自分からあいさつをしてくれます。朝、その子と出会えるととても良い気分になり、心に温かな風が流れてくるような感覚を覚えます。「なんてさわやかなあいさつなんだろう。こんな素敵なあいさつを自分自身はできているだろうか？」と自問させられるほどのです。また先生の前にきて、立ち止まり、しっかりと目を見てお辞儀をしながらあいさつしてくれる子。とても礼儀正しく、すがすがしい気持ちにしてくれます。あいさつ以外にも必ず声をかけてくれる子や元気いっぱいいな声であいさつしてくれる子。その子達からは、大きなパワーをもらっています。そんな一瞬の声掛けで、相手との距離を縮め、心に響きわたるあいさつの力。今、改めて強く感じています。

H30.10 21号-1

あいさつで「心のキャッチボール」を！

西野川小学校 校長 小野瀬 三智子

西野川小学校に着任して半年が経とうとしています。毎朝、正門で子どもたちを迎えていると、「おはようございます」の音があちらこちらから聞こえてきます。元気な声、ちょっと小さな声、恥ずかしそうな声、ニコニコ笑顔・・・みんなにあいさつをしているうちに、気が付くこちらが元気をもらっている気がします。私も少しずつ地域の方の顔を覚え、あいさつの後の何気ないおしゃべりが楽しくなってきました。

西野川小学校では、毎週火曜日にあいさつ運動を学年ごとに行っています。特に地域の方と一緒にいうあいさつ運動では、子どもたちが張り切っていることが分かります。あいさつは、「心のキャッチボール」と言われています。毎朝子どもたちとあいさつをすることで、私はキャッチボールができてきた気がします。子どもたちにも、友達同士や先生方、そして地域の皆さんとの「心のキャッチボール」の心地よさを感じてほしいと思っています。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

あいさつは心の窓

南野川小学校 校長 高橋 邦夫

私は、入学式の最初には「あいさつのできる子になりましょう」と話しています。私が毎朝、登校時に正門に立っていますとたくさんの子どもたちが元気にあいさつをしてくれますので、とても爽やかです。毎朝の「おはようございます」の一言により、一日のスタートに心が和みます。「あいさつは心の窓」とも言われますが、とても大事です。

南野川小学校では、子どもたちの間から代表委員を通して、あいさつ運動を行いたい…との提案がありました。それを受けて、保護者の皆さんからもPTA活動の一環として朝のあいさつ運動にご協力くださることになり、月に2回ですが、クラスごとに分担して担任と保護者の方に正門と南門に立っていただいております。その時には、民生委員の皆さま、町会役員の方々もお越しくださり、あいさつの輪が広がってきています。地域の皆さまのご協力に感謝し、これからも続けていきたいと思っています。

あいさつは いつも さわやかに つづけよう

南野川小学校 教頭 横溝 悟史

「おはようございます。」朝、登校一番子どもたちからこんな明るく元気な声が聞かれると、私も元気をもらいうれしくなって、「おはよう！今日も1日ががんばろう！」とごく自然に返します。反対にこちらから「おはよう！」と声をかけても「…？」と無言でうつむき加減に通り過ぎて行く子どもを見ると、「どうしたんだろう。元気ないな？」とあらぬ心配までしてしまいます。挨拶は、その時々の人々の心の現れでもあります。心が健康でうきうきしている時は自然に自分から元氣よくさわやかにあいさつができるものです。また、不思議なもので、誰であれ、明るくさわやかなあいさつをされると、何故かこちらまで明るくさわやかな空気に包まれ、気持ちがほぐれ、穏やかな心でいられます。あいさつは、すべての人間生活の基本です。私もあいさつ運動に一役買って、あいさつは、いつも、さわやかに、つづけられるよう、心と体の健康を保っていききたいと思います。

あいさつは 心をつなぐ

南野川小学校 校長 秋本 和子

日頃より、保護者、町会、民生委員の皆様方には、朝のあいさつ運動にご協力いただき、感謝しています。

最近、廊下や階段ですれ違う子どもたちが、「おはようございます」のあいさつだけでなく、ごく自然に「こんにちは」とあいさつできるようにもなっています。ある校外学習を引率した時のことです。ある子がバス停のベンチに腰掛けていて一般の方に、明るく大きな声で「おはようございます」とあいさつをしました。集団活動で公共機関で利用する際は、一般の方々には煙たがられることもあるのですが、このときは、相手の方だけでなく周りの方々も笑顔になり、その周辺が華やかな空気に包まれました。まさしくあいさつの力です。あいさつ運動は、児童の主体的な活動としても展開していきたいと思っていますが、本校は正門が給食物資の搬入経路にもなっており、業者車両の出入りと登校時刻が重なってしまうという課題があります。しかし、子どもたち自らのアイディア・工夫で、主体的・自主的なあいさつ運動が実践できるようにしていきたいと考えています。

目と目 心と心をあわせて

南野川小学校 校長 木下 孝文

「おはようございます。」子どもたちとのこのやり取りで一日が始まります。4月に着任してから子どもたちのあいさつの良さには、本当に感心してきました。毎朝パワーをたくさんもらっている気がしています。

私は、朝本校の校門で子どもたちとあいさつを交わすことを通して子どもたちの身体と心の様子を確かめています。どの子どもも気持ちが前向きな時には、しっかりと目と目を合わせてあいさつができるようです。また、毎日のあいさつが目と目を合わせ、心と心を合わせて行えるようにするためには、本校の教育活動を充実させていくことが大切であるとも考えています。ある意味子どもたちのあいさつは、本校の教育活動に対するバロメーターでもあります。気持ちのいいあいさつのやり取りは、人間関係を良好にし、教育活動に良い影響を与えます。また良い教育活動は、子どもたちの自尊感情を育み、生き生きとしたあいさつを生み出します。それらの相乗効果でより多くの笑顔のあふれる南野川小学校を築いていきたいと考えています。今後とも地域ぐるみのご協力をおねがいたします。

「おはようございます」～9文字の意味

南野川小学校 教頭 大窪 誠

毎朝、笑顔と笑顔であいさつができたらいいなあと思います。でも、大人だって、そういう気持ちにならない朝があります。体調の悪い日は、なおさらです。さて子供だったら？無理に笑顔をつくらなくても、カラ元気を出さなくても良いですよ。お家の人に叱られた朝は、ちょっと泣きそうな顔をしながら…。友だちと仲直りが滞っている朝は、声だって、小さくなるでしょう。明日、元気になるばOKです。だから、朝の正門で、子どもたちにあいさつをする時には、目を見るようにしています。

「今日も、笑顔が輝いているなあ。良い一日になるね。」「最近、目に力があるぞ。楽しいことがあるんだろうな。」「表情がないなあ…心配だなあ。声をかけてみよう。」「昨日より元気がないぞ。でも、しっかり目を見てあいさつができたから、きっと、だいじょうぶ！」

南野川小学校では、教職員が順番に朝の正門に立っています。こんな気持ちであいさつをしています。

H30.10 21号-3

真心をもって

南野川小学校 校長 野村 智

明るく元気なあいさつは、相手との関係をよくして、1日を気持ちよく過ごすことができます。南野川小学校の子どもたちのあいさつの素晴らしさには、着任した初日から感心しています。

学校では、子どもたちの行動範囲の広がりとともに様々な人との関わりも増えてくることから、あいさつなどの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえ、礼儀作法の形にこめられた相手を尊敬する気持ちを学年に応じた形で指導しています。低学年では、気持ちのよいあいさつ、動作などに心掛けて、明るく接すること。中学年では、礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること、高学年では、時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接することを指導の目標にしています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、連携した指導を今後も大切にしていきたいと思います。



南野川小学校 朝のあいさつ運動

つなぐ言葉、ひろがる輪

南野川小学校 教頭 近藤由起子

毎朝、正門や南門であいさつをしていると、元気な声のあいさつ、上り坂や上り階段で疲れてしまった声のあいさつ、ちょっと口が動いたかなあと言うあいさつ、いろいろなあいさつがあります。今日の調子を見取りながら、こちらもあいさつをしていきます。あいさつの後に、「あのね。」と話が始まることもしばしば。「おはようございます。」「こんにちは。」は人と人をつなぐ、素敵な言葉であることを実感する日々です。

地域の方が、一緒に朝のあいさつ運動に加わっていただける日は、子どもたちの意識も上がるようで、いつもよりちょっと声が大きいく感じます。いろいろな方々に見守られていること、気にかけていただいていることを改めて認識しているのでしょうか。「あら、素敵な〇〇ねえ」と声を掛けられた時のほかに含む笑顔からも伝わってきます。

学校・地域・家庭で、あいさつ運動の輪が大きく広がっていくよう、日々の取り組みをこれからも大切にしていきたいです。



南野川小学校 朝のあいさつ運動

H30.3 20号-3

あいさつで つながる心

南野川小学校 教務主任 吉田 祐子

「あいさつは心と心をつなぐリボン」という言葉があります。南野川小学校であいさつ運動に積極的に取り組むようになってから、私自身も校内ですれ違う子どもたちと、意識的にあいさつを交わすようにしてきました。朝、校門では「おはようございます。」と元気にあいさつできる子が多いのですが、それ以外の場所では難しいようです。階段や廊下では友達とのおしゃべりや次の活動のことで頭がいっぱいなようで気づいてもらえないことも多いのですが、めげずに声をかけています。時折、こちらを気遣いながら「こんにちは。」と少しはにかみながらあいさつしてくれる子ども達がいて、本当に心が温かくなります。

あいさつがつなぐ「心」には、「受容」「感謝」「励まし」など、その時々様々なものがあると思います。校内だけでなく、地域においても、あいさつを通して相手を気遣う「心」を表せる子どもたちになってほしいと思います。

「おはよう、こんにちは、そしてさようなら」

野川中学校長 今井 勇

日頃より、あいさつ運動をはじめ生徒を地域で見守りいただきまして誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。お陰様で少しずつではありますが、生徒が挨拶を返すようになってきました。また中には自分から「おはようございます」と挨拶を進んでするようになった生徒も増え、下を向いて校門を通る生徒が減ってきました。いろいろな悩みを抱える多感なときですが校門を通る時は健気に元気よく通っていきます。朝の「おはようございます」から始まり、廊下ですれ違う時は「こんにちは」、帰る時は「さようなら」と元気のよい声が聞こえてきます。

あいさつ運動により、地域の方々から見守られているという意識が生徒に芽生え、これからも地域の中での自分探しをしていくのではないのでしょうか。地域の中で、元気よく生徒が進んであいさつできるようになってほしいと思う今日この頃です。

H26.3 12号-1

地域といっしょに

野川中学校 校長 北谷 辰雄

日頃より、地域の子ども達に声かけや時には、指導をいただきましてありがとうございます。本校では、生徒会を中心に地域へ出向いて募金活動・地域清掃・地域盆踊り・吹奏楽部の地域行事参加など、ボランティア活動を積極的に取り入れています。

そのボランティア活動は、終わったあとの達成感や充実感、そして地域の方から評価して頂くことにより自尊心も育っているのではないかと感じています。

それは、生徒のやってよかった、参加してよかったという声が物語っています。さらには、「地域といっしょに」になって行ったことが、教員からの評価ではなく、第三者からの評価をいただく機会となっていることも意味のあることだと考えています。今後も、地域から応援してもらおうという一方通行の関係ではなく、「地域といっしょに」をテーマにあいさつ運動も含め、地域連帯を深めていきたいと考えています。

あいさつから学んだこと

野川中学校 生徒指導担当 中川 薫

○毎朝の“あいさつ運動”

昨年4月から、毎朝、校長をはじめ数人の先生が登校する生徒に「おはよう！」と声をかけています。また全学級の生徒も1週間ずつ担当しています。さらには定期的に主任児童委員、民生委員、そして自治会・町内会の方も参加し、生徒は地域の人に愛され、期待されていることをそれなりに感じていると思います。

○あいさつで感じたこと、学んだこと

生徒指導を担当して1年、毎朝300人から400人もの生徒とあいさつを交わし、色々なことを感じています。ひとつには、自ら率先してあいさつをする生徒が増え、学校生活の様々な場面で、活発な活動につながっています。二つには、今まで接点のなかった生徒とも自然に話ができるようになったこと及び生徒達を元気づけようと大きい声で話かけているものの、生徒から笑顔のあいさつをもらい、逆に自分が元気づけられています。三つには、隣接する西野川小学校児童のあいさつには、自然と顔がほころび、小・中学校のあいさつ運動の一体感を感じています。この1年、あいさつは人と人との繋がりに欠かせないものと改めて教えられました。「あいさつ運動のシール」を機にさらに学校と地域が一緒に取り組んでいければと思います。

H27.3 14号-1

「まずは大人が・・・」

野川中学校 教頭 高城 英一

以前、私がサッカー部の顧問をしていた頃、新しい学校に転勤したばかりのある先生が、試合会場に着くなり生徒と走って移動し、他校のいる所に行き一緒にあいさつをしていて驚いたことがあります。事情を聞くと「今度の学校はいろいろあるので、まず、あいさつがしつかりできるようにしたい。技術面はこれできてから」とのこと。この先生には、それまでも相手の正面に回り込み、しっかりあいさつをする人だなという印象をもっていました。同世代の私にとって、まさに見習うべき出来事でした。

普段何気なく交わしているあいさつですが、人柄が表れたり、他人とのコミュニケーションづくりの「きっかけ」を作るのもあいさつではないでしょうか。

家庭・地域・学校等において、大人が顔と名前のわかる関係でいること、自然なあいさつを交わすことは、子どもたちにとって、最も大切なことであると思います。

「おはようございます。」

野川中学校 生徒指導担当 井上 教夫

私が子どものころは、急に雨が降り出すと、干してある洗濯物を気にしてくれて、「井上さーん、雨ですよー。」と近所の方が声を掛けて下さいました。また、野球少年だった私は、暗くなるまで空き地で毎日のように野球をしていたのですが、見ず知らずの方が、「もう暗くなったから、おうちに帰りなさい。」と言ってくれて、家に帰ることもありました。地域の方に会うと必ずあいさつの言葉に加えて、「お使い、えらいね。」とか「車に気をつけなさいよ。」と言ってくれました。地域に住んでいる方々は、いつも子どもたちを見守ってくれていました。そして、家族のように接してくれました。

今は、スマホやゲーム機があれば一日だれとも話をしないで過ごせる時代です。また、若者のコミュニケーション能力の低下がクローズアップされています。ラインでのやり取りは、会話ではありません。言葉にして初めて会話が成立します。「おはようございます。」は会話の始まりですね。大切にしたい言葉です。

あいさつ運動の広がり

野川中学校 教頭 沖野 浩

「おはようございまーす」

朝練（部活動）をする生徒の皆さんから、元気なあいさつの声が出迎えてくれます。日常の学校生活の中で、あいさつが自然に交わされることの大切さを改めて感じています。

さて、漢字で書いた挨拶の^{あい}挨拶は「開く」、^{さつ}は「迫る」という意味で、「心を開いて相手に迫ること」があいさつの大意。とはいえ、この挨拶という言葉は、もともと日本にはなく、鎌倉時代後半、当時の中国から禅宗と呼ばれる仏教の宗派が日本に伝わるとともに入ってきたようです。それはやがて相手への敬意や親しみを込めたあいさつの言葉へ転じていったのでしょう。

野川中では、町内会・自治会や民生委員さんなど地域の方々に支えられ、朝のあいさつ運動が定着しています。そして今年、生徒自身の発案から、下校時のあいさつ運動も始まりました。「さよならプロジェクト」とネーミングされた「あいさつ運動」の広がりです。

地域の中の野川中学校

野川中学校 校長 堀川 芳夫

昨年11月18日(土)PTA主催のバザーが開催されました。2年後の創立40周年に向けて実施されたものです。PTA、竹葉会（PTA・OB会）、生徒・教職員が協力し運営する中で、多くの地域の皆様に参加いただきました。久しぶりのバザーということで多少の不安もありましたが、販売されたものを美味しそうに食べる姿や太鼓演奏・吹奏楽部のコンサート等に楽しそうに参加している姿を見て嬉しく感じると共に、地域の皆様に支えられていることを改めて実感しました。バザーのお礼ではありませんが、11月25日(土)には、地域教育会議主催で地域清掃活動を地域の皆様と生徒・教職員が一緒になって実施することが出来ました。当日、清掃していると飛び入りで参加してくれる方もあり、ここでも地域の皆様の支援の有難さを感じました。これからも中学校としては、地域の皆様と共に野川の子供たちを見守り支えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

あいさつは 魔法の言葉

野川中学校 校長 森島 烈

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など、あいさつはたくさんありますが、私があいさつで常に心がけていることがあります。

あ： 明るく、元気よく

い： いつも、どんなときも

さ： 先に（まず自分から）

つ： 続ける

ということです。

私は、朝、気持ちのいいあいさつをしてもらえるととても幸せな気持ちになり、その日一日が、心温まる一日となります。だからこそ、人にもそのような気持ちを味わってもらいたいと思ってあいさつをしています。あいさつは人を豊かにできる「魔法の言葉」なのです。この「魔法の言葉」の輪を、さらに広げていければと考えています。

(4) 学校と地域が一緒にあいさつ運動の標語づくり (概ね3年に1回)

H21.10 3号-3

◆200世帯に貼られた小中学生の標語シール

自治会はあいさつ運動の標語をシール化し、家庭、マンション、公園、薬局、コンビニ、福祉施設等への掲示の協力を頂きました。戸建住宅地域では、全体の1/3の200余りの世帯でポスト等に貼っていただきました。貼られたシールは、あいさつを通じ、子どもの笑顔と健やかな成長を促し、併せて近隣のつながりの強さを示すことから犯罪の防止にも役立ちます。



H26.10 13号-3

新しい標語決定！

**あいさつ運動
ひとことで みんなの顔に 花がさく**

心のこもった標語づくり

あいさつの持つ不思議な力を上手く活かしながら、学校と地域が一緒になって進めているあいさつ運動は、今年で8年目を迎え、あいさつをし合う街、支え合う街に一步步近づいていると感じています。

こうしたみんなの運動が、いつも新鮮で長続きするよう自治会が、西野川小学校の校長先生にあいさつ運動の標語づくりを特にお願ひし、今年で4回目に当たります。学校では今回も児童の「運営委員会」がリーダーシップをとり、7月に、1年生から6年生までの全クラスに標語づくりを呼びかけました。各クラスから出されたそれぞれ心のこもった魅力的な代表作品16点の中から、代表委員会があいさつ運動にふさわしい作品を選んで地域に提案していただきました。

児童の思いに添えて

9月の自治会の幹事会において、そんな児童の気持ちを大切に、みんなの顔に花が咲くような街づくりに繋げていくことに決まりました。その手始めとして年内にも提案された標語をシール化し各家庭に貼って頂くことにしています。

あいさつ運動は即効薬ではありませんが、これからの厳しい時代を迎え、笑顔で支え合う地域社会づくり(向う三軒両隣)の礎になると受け止めています。

H21.3 2号-2

地域の犯罪発生と 「標語シール」の犯罪抑止力

昨年末から、野川と有馬地域では、オートバイに乗って後方から近づき、追い抜き際に、バックなどをひったくる事件が多発しています。ひったくられる時にケガを負うことが少なくありません。時節柄これから多くなることが予想されますので、後方から来るバイク等に十分注意を払ってください。

また、犯罪の防止について、最近、野川台自治会が屋外用の「あいさつ運動の標語シール」を全戸に配布しているとのこと。犯罪の防止の視点からもぜひ推進してほしい。犯罪を行う者は必ず下見をしています。全戸にシールが貼られていれば、留守の家とわかっていても、隣近所の連携が強いから空き巣等への抑止力となります。

(宮前警察署生活安全課 田中係長)



H30.3 20号-3

みんなで考えたあいさつ運動の「標語」！

一野川地域の三つの小学校の児童の作品一

野川中学校区の三つの小学校の校長先生のご協力を頂いて、各学校毎のあいさつ運動の標語づくりに挑戦して頂きました。作成は各学校の「児童委員会」等が中心となって取り組み、それぞれ心のこもった作品の中から一点を選んでいただき、学校毎の標語シール作成しそれぞれ児童に配布しました。(三校合計1600余枚)。



- ◎あいさつで ひとつの笑顔が 生まれるよ (野川小学校)
- ◎あいさつで 笑顔あふれる 南野川っ子 (南野川小学校)
- ◎あいさつは 心と心を つなぐ糸 (西野川小学校)

あいさつ運動の標語づくりは、平成20年に西野川小学校で始まりましたが、平成29年度からは、野川地域の三つの小学校が、それぞれ各学校毎に、児童委員会を中心となって標語づくりに挑戦しています。

(5) 三つの小学校の児童の思い

H29.3 18号-3

みんなを 明るく 元気にしてくれます

—野川地域の三つの小学校の児童の声—

西野川小学校

✳ 私は、あいさつ運動でだれにでもあいさつをすることを知った。あいさつがにがてな私は、毎日あいさつができなかった。だけど、あいさつ運動がはじまり、あいさつが少しずつできるようになった。朝、正門であいさつをし、友だちとも元気にあいさつができるようになった。人とのつながりは、あいさつが大事だと気がついた (3年 前田 夏咲)

✳ 私は、あいさつをする事はとても良い事だと思っています。それは、あいさつをするとみんなが、えがおになるからです。西野川小でのあいさつ運動のときも、たくさんの人があいさつをして、学校のみんながえがおになれると思います。これからも、えがおいっぱいになるといいと思います。 (3年 岸本 陽花)



地域の人も朝のあいさつ!



下校時の元気のよいあいさつ!

野川小学校

H29.3 18号-3

✳ あいさつをすると、みんな笑顔になれます。話したことのない人やほかの学年などと、あいさつができるのは、とてもいいことだし、たった少ない文字なのに、人を笑顔に出来るすてきな言葉「おはよう」をたくさん言って、周りの人も自分も気持ちよく、笑顔で一日のスタートを切れるよう元気に大きな声で、「おはよう」とあいさつをしたいです。

(5年 古賀まひろ)

✳ 僕は、あいさつをすることで、一日、頑張ることができると思います。あいさつ運動を通して、話したこともない、知らない人と、かかわることができるので、これからもあいさつ運動を続けていきたいです。

(6年 嶋田 智)



ふれあい委員も!



みんな大きな声で!

H29.3 18号-3

南野川小学校

✳ あいさつ運動を始めた頃は、あいさつをする人が少なく、元気な人が少ないのかなと思いました。けれど、あいさつ運動を始めて少したった頃、あいさつをしてくれる人が増えてきました。私は、とてもうれしくなりました。あいさつをしてくれると、朝から元気になります。あいさつは、みんなを明るく元気にしてくれます。 (5年 鈴木 愛依)

✳ あいさつは、みんなとのコミュニケーションツールの一つです。そのあいさつを増やすためにあいさつ隊をやっています。夏の暑い日には蚊に刺され、冬の寒い日には頑張ってあいさつをしてきました。最初は声をかけても知らん顔の人も、続けていたら返事が返ってきてうれしかったです。あいさつは基本なので、これからも続けていきたいです。 (6年 柳本 和真)



代表委員、企画委員も参加!



民生委員も一緒に!

H30.3 20号-3

あいさつ運動の思い!

✳ あいさつ運動が、すごく楽しいです。どうしてかと言うと、あいさつすると「おはようございます」と返してくれるからです。 (3年)

✳ 朝から大きな元気な声であいさつすると、「あーねむい」というのがなくなり、シャキッとして「今日もがんばるぞ!」という気持ちになります。もっと朝以外も、ちゃんとあいさつがしたいです。 (4年)

✳ あいさつ運動の人が立っていると、明るく学校に来ることができるので、いいと思います。他人でも家族みたいにあいさつが出来て気持ちがいい。これからもあいさつ運動を通じて、みんなとつながっていきたいとおもいました。 (5年)

✳ この運動をすることで、地域の人たちと交流もできるし、低学年の人とも少し仲良くなれると思います。それにあいさつすることで、気持ちよく教室に向かえます。 (6年)

(三校の児童にアンケート調査をさせて頂いた際の、無記名の自由意見欄の声)

